

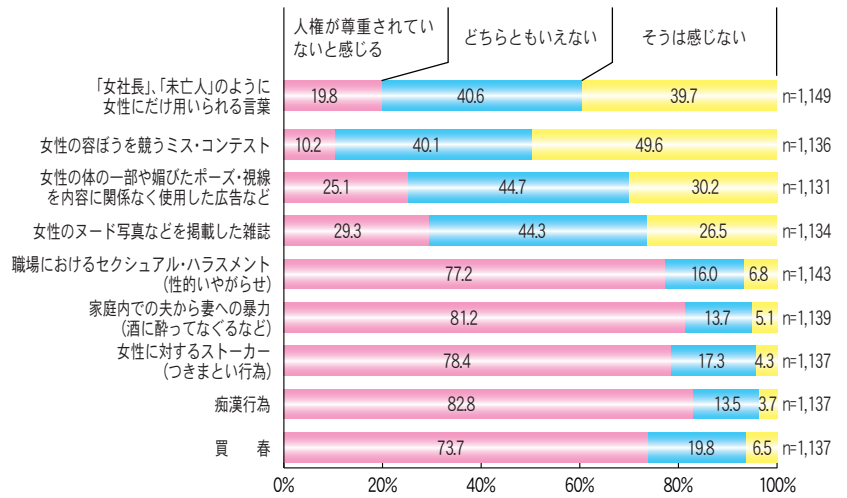
# 7 女性の人権に関する意識と実態

## 主に身体におよぶ行為の場合に女性の人権が尊重されていないと感じる

「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」、「家庭内での夫から妻への暴力」、「女性に対するストーカー」、「痴漢行為」、「買春」といった主に身体面におよぶ行為に対して、女性の人権が尊重されていないと感じる人の割合が高くなっています。

一方、言葉や視覚的な表現をしているものに対しては、人権が尊重されていないと感じる人の割合が低くなっています。

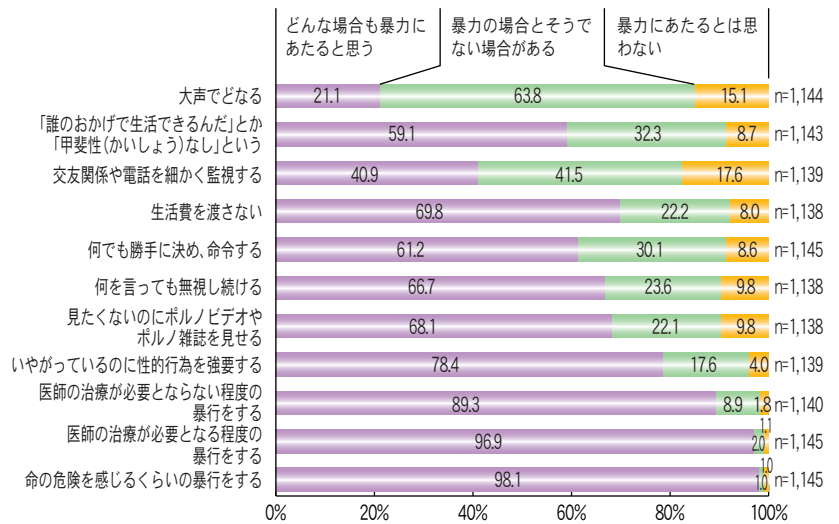
女性の人権に関する意識



## 夫婦間、恋人間の暴力は直接身体におよぶ行為ほど暴力と認識されている

夫・妻・恋人からの暴力について、身体へ及ぶ行為については、どんな場合も暴力にあたると思う人の割合が高くなっていますが、「大声でどなる」(63.8%)、「交友関係や電話を細かく監視する」(41.5%)などの精神的な暴力については、「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」と考える人の割合が高くなっており、暴力の認識に違いがみられます。

夫・妻・恋人からの暴力に対する意識



## 女性の約4割、男性の約2割が何らかの暴力を受けた経験がある

対象者のうち、実際に夫や妻、恋人から何らかの暴力を受けた経験は、女性では約4割(39.4%)、男性では約2割(22.8%)となっており、男女間の差がみられます。

男女とも「大声でどなられる」経験をもち人の割合が最も高くなっており、このほかには、女性では『誰のおかげで生活できるんだ』とか『甲斐性なし』といわれる」、男性では「何を言っても無視され続ける」経験をもち人の割合が高くなっています。

夫・妻・恋人から暴力を受けた経験(MA)

